

○議長（古畑浩一君）

日程第2、一般質問を行います。

昨日に引き続き、通告順に発言を許します。

東野恭行議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。〔12番 東野恭行君登壇〕

○12番（東野恭行君）

おはようございます。みらい創造クラブの東野恭行でございます。

発言通告書にのっとり、1回目の質問をさせていただきます。

1、糸魚川市が目指す「観光地いといがわ」について。

(1) 観光課と観光協会の連携強化について。

- ① この体制整備によって期待される効果をどのように考えているか。
- ② 一方で、行政と観光協会が同一拠点で業務を行う上での課題や留意点をどのように認識しているか。
- ③ 今後、観光誘客の強化に向けて、両者はどのような役割分担で取り組むのか。

(2) 姫川ヘリポートの観光活用について。

近年、全国各地でヘリコプターを活用した観光コンテンツが増えている。

- ① 姫川ヘリポートの現在の利用状況はどうなっているか。
- ② 観光振興の観点から、遊覧飛行や観光客向け交通手段として活用する考えはあるか。
- ③ 活用に向けた課題をどのように認識しているか。

(3) 押上ヒスイ海岸エリアの観光について。

「石のまち糸魚川」の発信から、押上ヒスイ海岸の人や車の流れに変化が生じていると思われる。

- ① 市は観光客や来訪者の動向変化をどのように分析しているか。
- ② 押上ヒスイ海岸を訪れる観光客の増加について、どのような評価をしているか。
- ③ 今後、押上ヒスイ海岸周辺をどのような観光拠点として位置づけていく考えか。

(4) ラピスラズリを活用した観光誘客について。

今、糸魚川産ラピスラズリが全国的に注目されている。

- ① 市はラピスラズリの持つ観光資源としての価値をどのように評価しているか。
- ② 現在行っているPRや誘客施策の内容と成果はどうか。
- ③ 今後、ヒスイと並ぶ地域資源としてどのように活用していく考えか。

2、キャリアフェスティバルいといがわの検証について。

(1) 成果の検証について。

- ① キャリアフェスティバル参加生徒に対する「アンケート」や聞き取りは行っているか。
生徒たちはどのような感想を持っているか。
- ② キャリアフェスティバル開催から6年がたつが、地元就職意識や地域愛着の向上につながっているか。

(2) 参加事業者の拡大について。

① 毎年たくさんの企業より出展いただいているが、出展企業を今後さらに増やす考えはあるか。

② 参加生徒たちが一番興味を持つ職種や取組は何か。

(3) 高校・大学との連携。

① 中学生だけではなく高校生年代への継続的なキャリア教育はどう進めるか。

② 糸魚川白嶺高校の進路動向から、令和8年3月卒業生の地元就職者は、男女併せて41名と統計が出ているが、キャリアフェスティバルの成果と捉えられるか。

(4) 人口減少対策との連携。

① 若者の地元定着にどの程度寄与していると分析しているか。

② Uターン・Iターン促進施策との連携は。

(5) 地元企業の人材確保。

① 人材不足が深刻な建設業、福祉、医療分野への理解促進にどのような効果があったか。

以上で、1回目の質問を終了いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

おはようございます。

東野議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目の1つ目の体制整備の効果につきましては、行政組織のスリム化やコスト削減のほか、連携強化によるDMO活動の推進、スピーディーな事業展開等を目指しております。

2つ目の課題と3つ目の役割分担につきましては、現在、策定を進めております仮称、観光マスタープランの中で、現状と課題を分析し、行政と観光事業者の役割を整理した上で、当市が目指す観光を一体的に進める体制づくりに取り組んでまいります。

2点目の1つ目の姫川ヘリポート利用につきましては、令和7年度において、防災ヘリとドクターヘリの利用が6件ありました。

2つ目の観光客向けの交通手段と、3つ目の活用に向けた課題につきましては、高付加価値の旅行商品を造成する中で検討すべきコンテンツと捉えておりますが、費用面、安全面等で課題があると認識しております。

3点目の1つ目の観光客の動向と2つ目の評価につきましては、近年は、石探しを目的とする来訪者が増えるなど集客力が高まってきておりますが、駐車場不足による路上駐車増加、トイレやごみ対策等が課題となっております。

3つ目の位置づけにつきましては、この集客力を地域振興に生かすため、市内の観光施設や飲食店への誘導、駐車場の有料化、キッチンカー出店など経済波及効果を生み出す取組を進めてまいります。

4点目の1つ目の観光資源としての価値につきましては、国内で初めて発見されたという学術的な価値のほか、希少な鉱物を産出する当市の地質多様性が国内外に発信されたことを評価しており

ます。

2つ目のPRや誘客施策につきましては、国立科学博物館など関係者と連携してPRに努めており、フォッサマグナミュージアムでの原石展示では、3月の入館者数が前年と比べ2倍以上に増えております。

3つ目の地域資源としての活用につきましては、漫画「瑠璃の宝石」と連携した特別展やグッズ販売等を予定しております。希少な鉱物であり、展示や講演など、見せる活用を中心に、地域の持続可能な発展につなげていきたいと考えております。

2番目の1点目の1つ目のアンケートや聞き取りにつきましては、選択式と記述式のアンケートを参加生徒に実施しており、充実感や市内企業を再認識する内容が多くあることを把握しております。

2つ目の地元就職意識や地域愛着の向上につきましては、実施前と実施後に、糸魚川市で働いてみたいと思うかを聞いており、昨年度は実施前の42%に対し、実施後に68%の生徒が地元就職に肯定的な回答をしております。糸魚川のよさを改めて認識し、新たに発見する機会となったとの記述が多くあり、狙いどおりの効果があったものと捉えております。

2点目の1つ目の参加事業者の拡大につきましては、毎年50以上の事業所が出展しておりますが、会場の広さや生徒のブース巡りの時間配分等、運営面の工夫が必要と考えております。

2つ目の生徒の興味をもつ職種や取組につきましては、個別には把握しておりませんが、できるだけ幅広い業種の方から出展していただきたいと考えております。

3点目の1つ目の高校生年代への継続的なキャリア教育につきましては、高等学校では、進学から就職まで幅広い選択肢の中から生徒一人一人に合わせたキャリア教育が求められるため、中学生年代までを対象にしたキャリア教育に力を入れて取り組んでいきたいと考えております。

2つ目の進路動向につきましては、本事業は、生徒が地域で働く大人との関わりを通して、自分自身の好きなものや生き方を見つけるきっかけとしてもらうことを目的としております。自分の生き方を考える中で、地元での就職を選択した生徒がいたことを確認しており、地域を支える世代が増えることは、喜ばしいことだと考えております。

4点目の1つ目の若者の地元定着への寄与につきましては、生徒が地元で働くイメージを膨らませることで、高校卒業後の地元就職や進学後のUターンという選択につながっているものと分析しております。

2つ目の施策との連携につきましては、ふるさととのつながりを保つ取組の中で、キャリアフェスティバル参加企業とも連携し、Chill Night Meetingなどの事業も継続する中で、若者のUターンを促進してまいります。

5点目の人材確保につきましては、中学生のキャリアフェスティバルや職場体験のほか、高校生のインターンシップや建設業協会等による合同授業など、様々な取組の効果として、地元企業への理解促進と就職につながっているものと捉えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の課長から答弁もありますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○ 1 2 番（東野恭行君）

それでは、2 回目の質問に入らせていただきます。

1 番の（1）の①体制整備によって期待される効果をどのように考えてるかということで、再質問させていただきます。

観光課と観光協会それぞれに事務分掌がある中、それぞれに役割と目的があると思いますが、観光課が庁舎から離れ、市民と民間事業者と近い場所で運営することで、物理的に距離感は縮まった感じはしますが、実感としていかがでしょうか。これまでどおり通年事業をそれぞれにこなし、それぞれの指示体制で仕事を行うのであれば、昨年以前の体制のままでよいと考えるが、改めてこの体制整備の狙いをお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

小林観光課長。〔観光課長 小林猛生君登壇〕

○観光課長（小林猛生君）

おはようございます。

ご質問にお答えいたします。

この体制整備の狙いでありまして、観光施策におきましては、行政が担うもの、協会が担うべきものがあると考えておりまして、お互いの役割分担を明確に整理し、実施をする中で、組織のスリム化、コスト削減、スピード感のアップを高めまして、より稼ぐ観光を推進していきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○ 1 2 番（東野恭行君）

スリム化とコスト削減というところが、今のところの目的かなというふうに捉えました。

②番の課題や留意点をどのように認識しているかということで、再質問させていただきます。

観光課と観光協会両者は、今まで違う事務所、職場と組織で運営を行ってこられました。それぞれに地域にとって必要な役割を担っていただいていると考えます。現在は、ヒスイ王国館内の1階の北側に入り口がある事務所で一緒に仕事をされています。そのタウンセンター内の事務所に訪れますと、右側が観光協会、左側が観光課と分かれていると思います。事務所内でのこのような配置は業務上問題ないと考えますが、統括していく船頭さんの在り方は難しい問題であるなというふうに感じております。

選ばれ続けるまちづくりとして、石のまち糸魚川によるシティプロモーションは、かなり地域に浸透してきていると考えます。これからは、稼ぐ観光を実現するために同一拠点で同じチームとして業務をする上で、双方の業務に対する理解をどのように深めていく考えか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

小林観光課長。〔観光課長 小林猛生君登壇〕

○観光課長（小林猛生君）

お答えいたします。

今後の業務の進め方というご質問と捉えておりますが、まずは市と観光協会で共通の目標を定め、その実現に向かって足並みをそろえて取り組む必要があるというふうに考えております。

また、両者が所管する業務の洗い出しと整理も必要であると思ひまして、5月に全職員を対象に、両組織の全職員を対象にヒアリングのほうを行っております。現在は、その結果をまとめ、検証しつつ、施策の方針となる仮称、観光マスタープランの骨子の策定について、協議を進めているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

現在3か月ほどたたれたのかなと思いますけれども、マスタープランをつくるべく、ヒアリングを行っているというふうに受け止めました。

③番のどのような役割分担で取り組むのかというところに入っていきたいと思いますが、稼ぐ観光実現のための交流人口増加という双方の目標に対し、それぞれが担う役割と成果指標をどのように整理していくのか。観光課と観光協会は、交流人口の増加によって稼ぐ観光を実現し、何をもって成果とするのか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

小林観光課長。〔観光課長 小林猛生君登壇〕

○観光課長（小林猛生君）

お答えいたします。

成果でございますが、観光協会も含め、観光事業者につきましては、売上が最大というか目標の成果になっていると思いますけれども、その基準につきましては、飲食店ですとか宿泊施設、交通事業者など、分野によって変わってくるものというふうに認識しております。

当市としましての成果につきましては、稼ぐ観光を推進する中で、第3次総合計画に定める指標である令和10年度までに観光入込客220万人の達成を目指すことになります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

今、具体的に220万人という数字が出たのでほっとしてるところですし、それを目指すことで、地域のこの経済波及効果もこれぐらい表れるという指標も見えてくるので、今答弁を聞いて安心したところでございます。

それでは、（２）番の姫川ヘリポートの利用状況について、どうなっているかを伺いたいと思います。

昨年５月の姫川・関川総合水防演習以来、姫川ヘリポートでヘリコプターを私自身、見ていないのですが、市としてヘリポートの利用の目的・用途を変えて活用するには、どのような手続が必要で、どのような障壁があるとお考えか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

川合文化スポーツ課長。〔文化スポーツ課長 川合三喜八君登壇〕

○文化スポーツ課長（川合三喜八君）

おはようございます。

姫川のヘリポートは、本来、姫川の河川敷であり、市が姫川運動広場として国交省から占用許可をいただき、利用しております。

また、姫川運動広場は、市の地域防災計画でヘリポート適地に指定されておまして、現在は防災ヘリ、ドクターヘリの緊急時のみの利用となっております。恒常的なヘリポートの利用となりますと、まずは、航空法上の許可が必要となります。あわせて、利用目的が変わりますので、国交省の再度の占用許可が必要となると、そういったものが大きな課題と捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○１２番（東野恭行君）

またこの複雑な占用許可が必要だということが分かったんですけども、であるならば、ほかに、例えば観光の目的で利用できるようなヘリポート、糸魚川に存在するのか、現時点で分かる範囲で教えていただければと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

小林観光課長。〔観光課長 小林猛生君登壇〕

○観光課長（小林猛生君）

お答えいたします。

今、観光目的で、市内で使えるヘリポートというのは、基本的にはないというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○１２番（東野恭行君）

それでは、②の観光の観点から、交通手段として活用する考えについて、お伺いしたいと思います。

市長答弁にもございましたが、ヘリ遊覧を糸魚川市の高付加価値観光のコンテンツとし、売り込

む考えはあるか。例えばふるさと納税の返礼品に設定するなどの提案を受けたり、検討されたことはあるか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎産業労働課長。〔産業労働課長 山崎和俊君登壇〕

○産業労働課長（山崎和俊君）

おはようございます。

ふるさと納税の返礼品ということで、ヘリコプターのお話の提案を受けてはございませんが、プレミアム感のある当市オリジナルのツアーという部分については、ふるさと納税の返礼品、特にプレミアム感のあるものについて、非常に向いているというふうには考えておりますので、観光旅行商品という部分についても、今後、開発が考えられれば、ぜひ実践していきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

姫川ヘリポートは、我々市民にとって、あまり頻繁に使われている印象がなく、ヘリを飛ばすにも高額な印象がありますが、糸魚川市は全国的にもかなり有名な歴史として、焼山山麓ヘリスキーツアー実行委員会による焼山山麓ヘリスキーツアーの実績と、民間事業者による焼山ジオサイトヘリコプター遊覧の実績があります。私も、過去にこの遊覧飛行を楽しませていただいた記憶があります。

これらの実績から、民間事業者や実行委員会等に意欲があれば、姫川ヘリポートを活用した遊覧飛行の観光コンテンツの実現は可能であると考えますが、現在、遊覧飛行や観光客向けの交通手段として、ヘリポート活用についての民間事業者や他市町村からのアプローチは存在するか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

小林観光課長。〔観光課長 小林猛生君登壇〕

○観光課長（小林猛生君）

お答えいたします。

今、議員おっしゃったように、焼山山麓ヘリスキーツアーですとか、あるいはマリンドリーム能生での遊覧飛行という民間の事業は取組はなされておりますけれども、ここ数年は、観光課、観光協会含めまして、民間事業者、他市町村からのアプローチについてはないというような状況になります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

このアプローチについて、産業労働課のほうにそういったアプローチはないかお答えいただければと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎産業労働課長。〔産業労働課長 山崎和俊君登壇〕

○産業労働課長（山崎和俊君）

長野県の白馬にですね、ヘリコプターを常駐されているという方から一度お話をいただいたことがございます。本来は、山岳救助であったり、山の上に、山小屋に物資を運ぶという用途で飛ばすヘリコプターなのですが、やはり時間が限られていて、要は止まっている時間もあるということで、そこを有効活用できないかということでお話は聞いたことがございます。

実際に、白馬と糸魚川間はヘリコプターで約10分の距離間だそうで、我々、前にもいろいろなお話、いただいているんですが、新鮮な魚介類を海のないところにも運ぶという、新幹線もしかりなのですが、今回もそういった部分で非常に面白い、もし糸魚川の魚を白馬にヘリコプターで運ぶことができれば面白いなというふうには考えます。

ただ、先ほど来、ヘリポートの課題はございますので、その辺がクリアできれば事業化も可能であるかと思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

活用に向けた課題について再質問、要望ですね、させていただきたいと思います。

過去にヘリコプターを飛ばされた実績がある分、課題についてもよくご理解されていると考えます。

今回、提案させていただきかかったのは、観光に関する他市町村との連携が模索される中、民間事業者や他市町村の提案があれば、柔軟に受入れをしていただき、実現を目指していただきたいということでございます。現実的に遊覧の目的、市単独の事業として姫川ヘリポートからヘリを飛ばすには、費用面や安全確保のための人員確保などを考えると、そんなには簡単ではないなというふうには考えております。

しかし、インバウンド観光客向けの交通手段で、受入れ側の目線で、受入れ後の糸魚川の観光メニューがしっかりと確立していれば、可能性は広がるのかなというふうに考えます。引き続き、近隣の白馬村やPCGによる開発を控えている妙高高原などの連携を模索していただきたいと考えます。さらなる連携の充実をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

小林観光課長。〔観光課長 小林猛生君登壇〕

○観光課長（小林猛生君）

お答えいたします。

さらなる連携の充実という部分につきましては、ちょうど妙高高原のほうでインバウンドを対象

とする大きな動きもありまして、我々もそれに今加わっておるわけですが、白馬村のほうにも外国人観光客の方がたくさん来ておられます。そういった方も含めてですね、ヘリコプターも含めながら、当市の観光、お金を落としてもらえる、稼げる観光の推進に努めていきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

よろしくお願いします。

続きまして、（3）番の押上ヒスイ海岸エリアの観光について、2回目の質問に入らせていただきます。

①番の動向変化をどのように分析しているかの再質問でございます。

市内の飲食店からも観光客が訪れているという実感と観光客にまつわるお話を伺うようになりました。石のまち糸魚川が、地域に浸透してきたと感じております。稼ぐ観光実現のために、観光課と観光協会は、どのような対話をし、押上ヒスイ海岸エリアにどんな展望を持っておられるか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

小林観光課長。〔観光課長 小林猛生君登壇〕

○観光課長（小林猛生君）

お答えいたします。

押上ヒスイ海岸エリアにつきましては、市長も答弁をさせていただきましたように、最近の石探しの人気も高まっておりますので、かなり集客力のある施設になってきているというふうに思います。

ただ、現実には、来ていただいてもなかなかお金を落としていただくシステムがないということで、こちらのほうも市長が答弁させていただきましたように、キッチンカーの実証実験的な配置ですとか、駐車場の有料化、石の有料の相談会、そういったものを今、観光協会と、できないかという部分について検討をしているところであります。とにかく市内に促す、ミュージアムですとか翡翠園ですとか、そういった関連施設のほうに促す、飲食をしていただく。そういった仕掛けについて、今後も協会と検討していきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

どうしても池田議員が先に質問されたので、答弁がかぶる部分があるんですけど、ご容赦いただければというふうに思います。

観光客増加について、どのような評価をしているかというところで再質問させていただきます。

独自調査になりますが、ゴールデンウィークの最終日の5月6日の朝6時から夕方5時、17時までの11時間、ヒスイ海岸の看板がある北側の、海側の細長い駐車場にて交通量調査を行いました。5月6日ゴールデンウィークの最終日は、その狭い駐車場に流入し、駐停車した車の台数は11時間で164台、細いほうですね。11時間で164台。最大16台から18台程度しか止まらない駐車場ですが、常に満車で、朝6時から、既に13台程度の駐車車両があり、1時間から長い方で2時間は駐車しているので、入り切らない車両が、ようやく東側の駐車場に止めるような流れでございました。

流入した車両のナンバーを確認しますと、自分たちの地域の長岡ナンバー、上越ナンバーは少なく、全部で41種類の他県ナンバーを確認することができました。こういった方が来られてるかっていいますと、小さいお子さんを連れのご家族、タクシーを利用して来場するお客様、女性1人のレンタルサイクルのお客様、北九州、山形ナンバーの20代と思しき女性の一人旅客、そして長野・松本ナンバーの団体外国人客ということで、糸魚川市の体験型スポットにいろんな人が訪れる様子を確認できました。

令和6年度版の糸魚川市観光統計では、186万人の観光流入客のうち4.2%を占める7万8,880人もの方が、市内海水浴場、ヒスイ海岸を含む6地点に訪れております。昨年の統計はまだ分かりませんが、確実にその母数は増えていると感じています。糸魚川で体験型観光を楽しんでいただくため、再び訪れていただくための観光のインフラ整備が必要であると考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

小林観光課長。〔観光課長 小林猛生君登壇〕

○観光課長（小林猛生君）

お答えいたします。

インフラ整備につきましては、現在の情報を踏まえて、また費用対効果のほうも検討しながら進めていきたいというふうに思っておりますけれども、駐車場については、周辺に候補となりそうな空き地もございますので、そういった部分も含めて、今検討しているところであります。

インフラ整備のほかにもソフト面の充実が必要だというふうに考えておりまして、例えば着地型のツアーの造成ですとか、グッズですとか関連商品の開発、二次交通の確保、そういった面も含めて総合的に対応してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

駅からマリンドリームまでのその実証実験も行われると思いますんで、そういった二次交通に関しても、また研究して、実施していただければというふうに思います。

③番の再質問になります。

ヒスイ海岸の看板がある反対車線の東側に、市が管理する駐車場、押上地区共同納骨碑「百霊廟」隣に駐車場があると思いますが、土曜や連休、ゴールデンウィーク、お盆の時期などは、その駐車場を有料にしたらどうかというご意見をたくさん頂戴しております。

その背景に、近隣の商業施設において、トイレ使用に関するトラブル、無断ごみ廃棄、警官が絡むような他県ナンバー同士のトラブルがあったと複数人からお伺いしております。

まず、このような声や事実を糸魚川市は確認されているのか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

小林観光課長。〔観光課長 小林猛生君登壇〕

○観光課長（小林猛生君）

お答えいたします。

過去にですね、ごみ利用に関するトラブルがありまして、それによりまして今マナー啓発看板のほうを設置したという経過がございます。近年では、観光協会、観光課ともに、特に苦情のようなトラブルがあったというようなものは、お聞きをしていない状況でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

先ほどの答弁の中で、有料を検討していくという答弁があったかと思うんですけども、それももちろん観光協会といろいろすり合わせしながら決定していったというふうに思うんですが、なぜ有料にしようという結論、方向性が出たのか教えていただければと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

小林観光課長。〔観光課長 小林猛生君登壇〕

○観光課長（小林猛生君）

お答えいたします。

無料駐車場で解放しているわけですが、我々としましては、地権者の方にお金を払ったりという状況がございますので、持続可能な観光という観点で考えれば、やはり頂くべきものは受益者負担というような形で負担をしていただかなければいけないということです。

あと、お金を取ることによってマナー向上ですとか、ごみが出たときに処理する費用を賄ったりとか、そういったものも含めまして、有料化を検討しているという状況でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

皆様のご意見をお聞きする限り、有料にする意図は、やっぱり決まった時間帯は観光客に安心

して止めていただき、利用していただくこと。有料となると、誘導や管理していただく人員を配置しなければなりません、人件費や毎日のごみの処分の費用も念頭に入れた運営ができるのではと考えます。

通年それを実施することは難しいと考えますが、行楽シーズンにキッチンカーの設置なども踏まえるのならば、社会実験的に駐車場を有料にし、快適簡易トイレ、毎日のごみの回収が前提のごみ箱の設置を実施してみる、そんな価値があると考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

小林観光課長。〔観光課長 小林猛生君登壇〕

○観光課長（小林猛生君）

お答えいたします。

まず、ご提案をいただきまして、ありがとうございます。本件につきましては、観光協会、あとは地元の皆さんと、関係者の皆さんと協議をする中で、検討してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

昨日ですね、池田議員の質問の中で、質問が終わった後、どんなトイレが設置しているのかということで写真を見せていただいたんですけど、結構衝撃を受けましてですね、それにちなんだ質問なんですけども、ヒスイ海岸の利用客に押上駅のきれいなトイレを活用していただくという、市が昨日いたしました答弁は、女性観光客に対する配慮であると考えます。海岸端にたたずむ2つの和式簡易トイレが、女性には使いにくく、不衛生に感じている表れであると考えます。観光課と観光協会が一緒になった暁に、いま一度、お客さん目線で考えていただければというふうに考えます。観光地として、周辺の商業施設との共存も市や観光協会が考え、対応を取っていくことが大切であると考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

小林観光課長。〔観光課長 小林猛生君登壇〕

○観光課長（小林猛生君）

お答えいたします。

お客様目線で考えるということは、観光施策におきまして非常に大事なことであるというふうに考えております。周辺には、コンビニ店ですとか、あるいは飲食店、そういった施設もございますので、そういったものが最大限活用されるように、今まであまり対話というのをしてこなかったというようなこともございますので、ちょっと状況をヒアリングする中でですね、昨日、池田議員の質問の中でも、ごみとかトイレの使用で困っている部分があるというようなお話もお聞きしておりますので、その辺も含めまして、協働について進めていきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

まずですね、ヒスイ海岸の近隣にある商業施設や住民の方々に聞き取りをお願いしたいと思います。私もできる限り協力したいと思います。

観光課と観光協会で、最適解を導き出していきたいと考えます。これについて、市長のほう、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

ご質問ありがとうございます。

また、非常に応援に係るメッセージもいただきまして、心強く感じております。

えちご押上ひすい海岸駅の周辺については、まだまだいろんな部分で考える余地があると思います。今、課長が申しましたとおり、近隣の施設との対話を通じて、どういうふうな共存の在り方をすればいいのか、早急に取りそろえて、市民の皆さん、また来ていただく観光客の皆さんにお示しできるように努力をさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

市長、ありがとうございました。

それでは、（4）番の①ラピスラズリの持つ観光資源の価値をどのように評価しているか、再質問させていただきます。

2026年2月、糸魚川市内の姫川支流で採取されていた青い石が、国立科学博物館の分析により、ラピスラズリであることが確認されました。日本国内で初めてラピスラズリの産出が確認された事例となりましたが、糸魚川において、今後さらなる新たなラピスラズリの発見の可能性があるのか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

川合文化スポーツ課長。〔文化スポーツ課長 川合三喜八君登壇〕

○文化スポーツ課長（川合三喜八君）

来月、7月からラピスラズリの関係で、国立科学博物館が現地調査に入る予定にしております。今後、さらなるラピスラズリの実見の可能性は、十分あると考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

2026年3月より、フォッサマグナミュージアムにおきまして一般公開されましたが、8月30日まで公開されるようですが、その後はどのような扱いをされるのか、もうミュージアムには展示されなくなってしまうのか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

川合文化スポーツ課長。〔文化スポーツ課長 川合三喜八君登壇〕

○文化スポーツ課長（川合三喜八君）

8月30日までフォッサマグナミュージアムのふるさと展示で展示しておりますが、その後につきましては、9月19日から始まります特別展の瑠璃の宝石の会場で、12月27日まで展示をする予定でございます。それまでは所有者からご承諾をいただいておりますが、その後につきましては、できればフォッサマグナミュージアムで常設展示できるよう、所有者とご相談させていただきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

その辺も限度があるかと思うんですけども、交渉していただいて、できるだけ多くの人に見えていただけるような工夫をしていただければというふうに思います。

今回、発見されたラピスラズリやヒスイを観光資源として活用するのであれば、見るための展示だけではなく、発見する体験、採取する体験、それを鑑定してもらい、持ち帰る体験が観光のコンテンツになるというか、もう既になってますけども、考えますが、そのようなパッケージをラピスラズリでも同様に考えることができるか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

川合文化スポーツ課長。〔文化スポーツ課長 川合三喜八君登壇〕

○文化スポーツ課長（川合三喜八君）

糸魚川産のラピスラズリにつきましては、発見された個数が非常に少なく希少なものでございます。これから専門家の現地調査も入る予定でございますので、発見する体験、採取する体験等は、現時点では考えておりません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

私ちょっと言葉足りなかったんですけども、現地へ行ってみる体験ということよりも、例えばフォッサマグナミュージアムを活用して、佐渡へ行きますと、砂金の採集するような、そういう体験があるかと思うんですけども、そういった意味で、子供たちでもそうやって楽しんでいただけるような、そういう体験ができないか、糸魚川には2つの宝石があるので、それを探す、楽しむ体験

といいますか、そういったことができないかという質問なんですけど、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

川合文化スポーツ課長。〔文化スポーツ課長 川合三喜八君登壇〕

○文化スポーツ課長（川合三喜八君）

現在、フォッサマグナミュージアムでは、化石の谷の体験がございまして、子供たちが化石、石を割ってですね、化石を発見するということで非常に高い人気がございます。

ただ、ラピスラズリにつきましては、非常に数が少ないものでございますので、現時点ではそのような予定は考えておりません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

また、体験型観光の一つとして、ご検討いただければというふうに思います。

ラピスラズリの鮮やかな瑠璃色は、顔料としても使われており、地域の飲食店やお土産店、物産展にも活用されやすい色であると思います。既に商品化されているお店さんも見受けられますが、ヒスイジュエリーのデザインコンテストのように、観光課と観光協会公認で、ラピスラズリにまつわる名産品のコンテストがあると盛り上がりそうだなというふうに感じました。どのような活用のアイデアに期待しますでしょうか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

小林観光課長。〔観光課長 小林猛生君登壇〕

○観光課長（小林猛生君）

お答えいたします。

ラピスラズリの観光への活用という部分につきましては、今既に市内のあめ屋さんですとか、米屋さんですとか、関連商品をフォッサマグナミュージアムのほうのショップで販売しているというような状況です。

近年、毎年夏に行っております観光協会のストーンフェスティバルですかね、そちらのほうでも関連する商品を今募集をしていると。各お店で青い飲物ですとか、そういったラピスラズリに関係するようなメニューを開発しているというふうに聞いております。そのほかグッズ作成等の話もございますので、そういった部分のアイデアに期待をしているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

地域全体で盛り上げていきたいなというふうに思います。

2番目のキャリアフェスティバルの検証について、（1）の①生徒たちはどのような感想を持つ

ているかということで答弁をいただきましたが、この取組により、地元企業に対する認知と距離感が確実に縮まったと感じております。人口減少により、毎年の地元就職者の数は大きく増えませんが、一定の成果があったと感じております。

逆に、アンケートの中で苦言もあろうかと思いますが、この際、ちょっとお聞かせ願いたいんですが、お願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども家庭課長。〔こども家庭課長 室橋淳次君登壇〕

○こども家庭課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

キャリアフェスティバルのアンケートということでございますけれども、この事業自体に対して否定的な意見とか苦言みたいなものはいただいておりませんけれども、やはり運営面の中でですね、やはりブース、隣り合わせのブースでの音の響き具合でありますとか、またあと、生徒さんの面で行きますと、午後になりますとやっぱり生徒さんのほうがちょっと慣れてきて疲れたりといったところもありまして、そういった部分での苦情・苦言みたいなものはあったというふうなところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

②番の再質問に入ります。

以前、キャリアフェスティバルに関する質問の中で、長野県伊那市の事例のように、生徒自身が企画運営に関わる必要があると発言させていただきましたが、その後、糸魚川市のキャリアフェスティバルの運営についてはどうか。ここまで来ると生徒の意識で運営の形態はなかなか変えられないと考えますが、変える必要がないというふうにお考えか。運営開始から他市町村の事例を研究されていると思いますが、お考えを伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども家庭課長。〔こども家庭課長 室橋淳次君登壇〕

○こども家庭課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

私どもも、キャリアフェスティバルを開始する前に、伊那市の事例を実際に視察させていただきました。その中では、中学生が、もう夏休みぐらいから、キャリアフェスティバルの2か月ほど前ぐらいから運営に携わるということで企画立案をされているといったところもお聞きをしておりますが、なかなかやはり当市におきましては、そういった部分で一部の生徒に負担がかかるといったところもございますし、当日、生徒さんから実際のキャリアフェスティバルの部分で理解を深めていただくといったところで十分教育的な効果は上げられているというふうに捉えておりますので、

現状では、これまでどおりの形で進めていくといったような考え方でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

少し残念ではあるんですけども、伊那市では、2014年にキャリア教育憲章を制定し、「地域で子どもを育てよう」を理念に掲げており、キャリアを職業選択だけではなく、生き方として位置づけています。

働く意義や地域で暮らす魅力を大人が直接伝える場として運営されていますが、糸魚川市の運営は、どのように意識を持って運営されているか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども家庭課長。〔こども家庭課長 室橋淳次君登壇〕

○こども家庭課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

市でどのような思いを持ってというところでございますが、キャリアフェスティバルを毎年、開催した後に実施報告書というのを作っておりますが、そこにですね、思いということで端的に述べさせていただいておりますので、少し読み上げさせていただきたいと思います。

糸魚川市には、生き生きと、そして堂々と自らの仕事に誇りを持って生きる多くの大人が働いています。将来を担う中学生が、地域の企業を知り、地域で働く大人との関わりを通して自分の好きや生き方を見詰めるきっかけとし、いつの日か地域を支える主役になってもらいたいということで記載をさせていただいております。このような思いを持ちながらですね、キャリアフェスティバルのほうは運営させていただいております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

ありがとうございました。

（2）の参加事業者の拡大について、①再質問させていただきます。

総合体育館のキャパの問題もあり、出展企業をさらに増やすことは難しいと考えますが、地域活動団体等もキャリアフェスティバルに参加していただく意義があると考えますが、参加の現時点の実態をお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども家庭課長。〔こども家庭課長 室橋淳次君登壇〕

○こども家庭課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

先ほどもちょっとお話に出ました伊那市では、例えば神楽の伝承団体ですとか、そういった文化系の団体、いわゆる職業ではない部分の団体さんも事業所という形で出展されていたというふうに私ども承知はしております。

ただ、私どものほうでも、そういった団体さんを特段除いていると、対象としてないというわけではございませんが、これまでご応募等もございませんし、実績としては、そういった団体の参加というのはなかったというふうになっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

ぜひ糸魚川でもそういった団体、数多くありまして、先ほどのヘリスキーなんかもそうなんですけども、30年続けてられるとか、そういったいろいろ活動団体がございますので、そういったところで生徒たちに触れていただくことで地域に対して感じることもあろうかと思えますんで、また、声がけのほうも、直接声をかけてみると違う結果も出ようかと思えますので、またそこも意識していただければというふうに思います。

②番の再質問です。

各事業者さんのプレゼン力や展示物の工夫で生徒たちの興味・関心に差が出ると考えますが、出展企業にしてみると、将来の人材確保につながる大切な機会であることから必死であると考えます。出展事業者に対して教育委員会は、どのような要望をされているのか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども家庭課長。〔こども家庭課長 室橋淳次君登壇〕

○こども家庭課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

出展事業者の皆さんも、本当にキャリアフェスティバル、回を重ねるにつれましていろいろと工夫を、生徒の興味を引くような工夫をさせていただいて、本当にありがたく思っております。

私ども教育委員会といたしましては、事業者の皆さんには、事前の説明会の中では、やっぱり将来に向けた、例えば職員の採用といったところを念頭とするよりもですね、実際の仕事の内容はもちろん伝えていただくんですけども、その仕事に対する向き合い方、思い、こだわり、そういったものを体験やエピソードを含めながら1人の大人としてお話しいただきたいということをお願いしているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

ありがとうございます。

それでは、（３）番の高校大学との連携ということで、①の再質問に入りたいと思うんですが、答弁のほうではなかなか、高校の世代になりますと、進学等の理由があることからということで、キャリア教育については、少し控えめな答弁だったかなというふうに思うんですけども、その考え方について、いま一度担当課のほうからご説明いただければと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

室橋こども家庭課長。〔こども家庭課長 室橋淳次君登壇〕

○こども家庭課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

高校等の連携等ということになりますと、やはり高校に関しましては県立高校といったところの部分もございます。今、市内の中学生、キャリアフェスティバルということで１日拘束をして、事業に参加をいただいておりますが、なかなかそういった部分までを含めると、高校でのという対応はなかなか難しい部分もございますので、現時点では、中学生までを対象としたというところに精いっぱい力を入れていきたいというふうに考えているものでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○１２番（東野恭行君）

本当に高校時代の世代もすごくキャリア教育って大事だなと思うんですけども、何かうまく連携ができるような、そういう手だてがあればなというふうに感じております。

それでは、②番の再質問、白嶺高校の４１名の就職の統計が出ていることについて、再質問させていただきます。

地元就職した率直な動機を調査されているのでしょうか。今後地元に残って就職してもらうための貴重なご意見になると考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎産業労働課長。〔産業労働課長 山崎和俊君登壇〕

○産業労働課長（山崎和俊君）

新規学卒者激励会がんばれ！ニューフェイスに参加していただいている方については、アンケート調査を実施しております。

ただ、こちらへ参加される方は就職者全てではございませんので、確実な数字ではございません。また、当課で地元就職運転免許取得補助金ということで、高卒すぐに糸魚川に残って就職された方に補助金を２年前から実施しておりますが、今年度、そちらの方を対象に詳細のアンケートを実施したいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

少しでも地元に残っていただいている若い世代にそういう言質を取っていただいて、また次に生かしていただければというふうに考えております。

地域の名立たる企業が、就職先として、白嶺高校のリストを拝見させていただいたんですけども、名立たる企業が就職先として名を連ねておりましたが、観光産業や起業家と接する機会はお考えか。今の中学生がどのような職種に興味のほうがあるか、把握できていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎産業労働課長。〔産業労働課長 山崎和俊君登壇〕

○産業労働課長（山崎和俊君）

キャリアフェスティバルの参加企業の中に、観光の事業者であったり、自ら起業をされた方というのもしらっしゃるというふうに思っておりますが、参加時点で中学生との強い接点といたしますか、そういった部分で影響を与えているかということについては少し不透明であるかというふうに捉えております。

また、もう一点の中学生の職業、職種への関心については、現時点では把握しているものはございません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

そういった意味では、糸魚川市って創成塾でいろんな成果を出していると思うんですね。そういった方にも触れていただくというのもすごく大事なことだなというふうに感じておりますので、検討いただければというふうに思います。

それでは、（4）の①番、再質問させていただきます。

糸魚川キャリアフェスティバルを、単なる職業体験事業として位置づけるのではなく、将来的な定住人口の確保やUターン人材育成事業として位置づける考えはあるか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎産業労働課長。〔産業労働課長 山崎和俊君登壇〕

○産業労働課長（山崎和俊君）

先ほど申し上げました、がんばれ！ニューフェイスのアンケート結果によりますと、キャリアフェスティバルに参加した方に対する中で、キャリアフェスティバルが自分の就職に影響したかという部分の問いに、約87%の方が就職決定の参考になったというふうに捉えております。令和8年度のデータで87%、令和7年度で82%が参考になったというふうに答えているところから、ご指摘の定住人口、Uターンの促進について、それらに資する事業の一つと言えるというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

それでは、（４）の②番のＵターン・Ｉターン促進施策との連携について、再質問させていただきます。

糸魚川市におけるＵターン・Ｉターンの制度は、かなり充実していると感じていますが、制度に対する認知は、生徒たちにちゃんと届いているか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎産業労働課長。〔産業労働課長 山崎和俊君登壇〕

○産業労働課長（山崎和俊君）

中学生に向けて、Ｕターン制度を周知という部分についてはなかなかできていないということが率直な感想です。全体のＰＲについては、時と場合に合わせてＰＲして、周知しているつもりではございますが、十分であるとは思ってございません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

糸魚川市の公式ＬＩＮＥで、Ｕターンに関する配信は行っているか伺いたいと思います。

中学生や高校生に対し、糸魚川市の公式ＬＩＮＥの活用を市として意識されているかも含めて伺いたいと思います。いつでも地元の情報が得られる公式ＬＩＮＥは、Ｕターンの促進のいずれ一助になると考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎産業労働課長。〔産業労働課長 山崎和俊君登壇〕

○産業労働課長（山崎和俊君）

公式インスタグラムにつきましては、糸魚川で地元の暮らしを発信しているという部分ではございますが、ご指摘の公式ＬＩＮＥで配信しているかということについては、詳細のデータ手元にございませんが、もしあったとしても少ないものというふうに捉えております。中高生が市の公式ＬＩＮＥにどれだけ登録しているかというところは、現在把握できておりませんが、中高生というより、その保護者世代にはＬＩＮＥが有効ではないかというふうに捉えております。

ただ、ご指摘のように、中高生等に対して、彼ら、彼女たちが欲しがる情報を継続的に届けるというシステムといいますか制度は非常に重要だというふうに捉えておりますので、継続的に情報発信をできて、つながりをつくっていくということについては、検討していきたいというふうに考えます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

なぜこんな提案をするかという、自身の子供たちが公式LINEに登録して、そのまま東京にいるんですよ。東京の中で、糸魚川の情報をしっかり、見てるかどうか分かりませんが、そういった状況も考えられるので、いかなるそういう情報、Uターン・Iターンの情報についても、やっぱりLINEって有効だなというふうに感じましたもんで提案させてきました。

それでは、（5）番の①、最後の質問、市長にお伺いしたいと思います。

糸魚川キャリアフェスティバルも年数を重ねるごとに、本物が体験できるキャリアフェスティバルに進化していると感じています。中学生や高校生に、糸魚川も人手不足だから帰ってきて、就職してという促しではなくて、糸魚川を守っている仕事であるという促しが大切であるというふうに感じてます。本年度のキャリアフェスティバルの10月に行われるキャリアフェスティバルの意気込みをお聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

ご質問ありがとうございます。

私も第1回目のキャリアフェスティバルから若干携わりまして、今年、市長になって2回目になりますけども、徐々にキャリアフェスティバル自体が進化してるな。中学生の、いわゆる参加に対するモチベーションも上がってるなというふうに感じています。今、いろんな答弁の中で、やっぱりこのキャリアフェスティバルの持ち方について、まだまだ工夫が必要だという部分、思いもありますので、それについては検討を重ねていきたいと思っております。

糸魚川市としては、0歳から18歳までという一貫子ども教育をしているわけでございます。今後、必然的に糸魚川市内の高校のいろんな諸問題が明らかになってくると思います。それに基づきながら、やっぱり中学生を一つのきっかけとして高校進学、そしてその後という部分について、やっぱり広く理解を促進していくという施策的な部分も必要だと思います。高校は、県という部分じゃなくて、市でも高校生を大事に育てるという部分の思いを遂げていきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。

○12番（東野恭行君）

以上で、私の質問を終わらせていただきます。

○議長（古畑浩一君）

以上で、東野議員の質問が終わりました。

11時15分まで暫時休憩いたします。

〈午前11時07分 休憩〉